

# 明るい 笑顔で登校



不登校対策専門員  
尾 豊 良 左

## ★いじめを察知したとき

へいじめられるわが子には

①まず、わが子の心を支え、わが子を守る親の真剣さを伝えましょう。

②信頼できる友だちから情報を得ましょう。

③学校や先生や相談機関に相談しましょう。

④学校と家庭が力を合わせて援助しましょう。

⑤仲直りしたと思っても心の支えを。(直後が危険)

へいじめられるわが子には

①悪いことは悪いとして、毅然とした態度をとりましょう。

②いじめに走る背景を察して、ともに考えましょう。

③学校や先生や心理相談員に相談しましょう。

④いじめられた子の気持ちを思いやりましょう。

⑤学校と家庭が力を合わせて、よりよい生き方を学ばせましょう。

## ★心をつなぐ、あいさつのキャッチボールをしよう

あいさつは心と心のとびらを

開き合うこと

心と心がつながることです。あいさつと 笑顔があれば 友だちいっぱい。幸せいっぱい。

## 教育相談窓口について

教育相談は、心理相談員が左記の日程で相談に応じています。

ご自身の学校での悩みや、お子さんについて心配なことをお気軽にご相談ください。

## 相談日・相談時間

相談日：水曜日

相談時間：

午後2時～5時

相談場所：心理相談室

相談料：無料

あらかじめ電話で相談日時を決めます。水曜日、午後2時～4時30分の間にお電話ください。

## 予約・問い合わせ先

教育委員会生涯学習係  
(32) 2770 または (32) 9100 へかけていただき、心理相談室内線117番へ繋ぐようお願いください。

御代田町では、おとし、子育て十カ条を

作成しました。

「人間力を高める

子育てのあり方」について指針を示し、家庭・

地域・学校・園・各種団体などが、一体となっ

て取り組んでいく必要性を呼びかけました。

「生きる力」の源は、

家庭にあります。

家庭こそ

真の心の居場所です。

## ○家庭の団らんこそ

生きる力の源です

会話と笑いは、ストレス解消のキーワード。

家庭での会話と笑いは、安心と元気を生み出し、生きる力の源となります。そのためにも、家族そろっての食事の時間は大切にしましょう。

## ○何でも話せて温かく

明るい家庭をつくらう

何でも話せて、温かく明るい家庭こそが、子どもにとって真の心の居場所なのです。

毎月「第3日曜日は、わが家の家庭の日にしよう」と決め、テレビを消して「読書の日」にしたり、家庭の行事を計画したり、仕事を分担したりして、家族が、みんなで過ごす時間を確保しましょう。

## ○しつける厳しさを持って

人生を語る家庭にしよう

人間としての在り方や生き方について語り合い、心豊かにたくましく生きる力を育みましょう。

## ○周りの人や家族のよさを

素直に語れる家庭で

ありたいものです。周りの人や家族について心温まる話は、素直な気持ちを引き出し、人への思いやりや感謝の気持ちを育みます。

## ○小さなサインを見逃さないようにしましょう

親に知られたくないこともたくさんあります。沈んだ表情、いつもと違う行動を感じたら、決して見逃さず、温かい言葉かけで子ども

の心を支えましょう。

# 電話番号の登録は お済みですか？

御代田消防署では、119番通報受信時に、瞬時に通報者の家を検索することができる地図検索装置を導入しています。この装置には、町民の皆さまの住所、世帯主氏名、電話番号を登録してあり、火災や救急などの有事の際には、素早い場所特定ができるように、常に情報を更新しています。

つきましては、未登録と思われる方や、町内への転入、町内での移転、電話番号の変更などございましたら、お手数ですが、御代田消防署警防係に電話で連絡していただくか、登録用紙が町役場住民課の窓口と消防署にありますので、記入していただき、消防署警防係まで提出してください。また、一般電話がないという方は、携帯電話番号でも登録できます。なお、ご記入いただいた情報は、外部に流出することはありません。

## 救急車の適正な利用をお願いします

最近、救急車のピーポーのサイレン音を聞く機会が多くなったと思いませんか？全国的に増加傾向にある救急車の出動件数ですが、御代田消防署も例外ではなく、去年は過去最高の救急出動件数(632件)となりました。救急車を要請した人の約半数は、緊急性が乏しい、入院の必要の無い「軽症者」とも言われており、中には通院に行くための交通手段が無いとあって、救急車を利用したという方もいました。このような救急に出動している間にも、ほんとうに救急車を必要とする人が御代田町内にいるかも知れません。実際、以前に比べ救急車が現場に到着するまでの時間が長くなってきており、このような状況では一分一秒を争う生命の危険にある傷病者への対応が遅れてしまう恐れもあります。適正な救急車の利用を心がけましょう。

なお、突然の頭痛や急な胸の痛み、ろれつが回らなくなったり手足に力が入らなくなったりするなど、明らかにいつもと様子がおかしいと思ったら、ためらわずに救急要請してください。



## 平成23年度

### 消防庁長官定例表彰受章

町消防副団長の荻原和美氏(草越区)が、消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章されました。

この章は、永年勤続し、その勤務成績が優秀で、かつ他の模範と認められる現職の消防団員が対象となっており、荻原氏は、団員拝命以来25年余の永きにわたる奉職が認められ、今回の受章となりました。

